

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 1】

＜エントリーシート＞	部門 研修成果活用部門 平成 28 年第 1 回副校長、教頭等研修	学校名・氏名 新潟県 新発田市立佐々木中学校 森谷 優子
※事務局記入欄	活動名 生徒の力を育む教育課程 総合的な学習の時間を核にカリマネ	
No. : A-36		
課題の設定 : ※活動を行う前に、課題や目標をどのように設定しましたか？視点などを含めて記載してください。 当校の課題は、一小一中、学年 1 クラスの中で 9 年間続く狭い人間関係で過ごしていることによる、人間関係・社会形成能力の不足、コミュニケーション能力の低さであった。生徒にこれらの資質・能力を身に付けさせ、活用することの楽しさを目標とした。		
方針・計画 : ※課題を解決するために仮説を立てて、活動内容を組み立てたのか、記載してください。 この課題を解決するためには、教育課程を社会に開き、地域と学校で生徒を育てていく活動が必要だと考えた。総合的な学習の時間を核に、国語科、学級活動などで、人間関係・社会形成能力、コミュニケーション能力の育成を教科横断的に仕組めば、生徒の資質・能力は、伸びていくと考えた。		
活動内容 : ※方針・計画に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください 生徒がフィールドワークで地域のよさと課題を知り、自分たちの課題を「地域の大人と子どもの交流が少ない」と設定した。その課題解決を図ろうと、「中学生の力で佐々木を活性化プロジェクト」を企画した。「活性化のためにやりたいこと」「自分にできること」「自分たち中学生に周囲が期待していること（求められていること）」を考えながら、アイデアを出し合い、プロジェクト名は「佐々木 PR 大作戦」とした。アドバイザーを迎えての中間発表会を経て、「中学生の力で佐々木を活性化プロジェクト」を実行した。(写真 3) (写真 5)		
活動の成果 : ※課題や目標に対し、どんな影響、変化あったか、職員や参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。 ＜生徒＞ ・9 割以上の生徒が、国語科で学習した内容や方法が、総合的な学習の時間に役に立ったと感じている。具体的には、プレゼンテーション、質問力、スピーチ、討論ゲーム等があげられた。また、国語科で学習した内容や方法は、他教科、他領域、学校行事、日常生活で役に立つと実感していた。(表 1) ・活動が役に立ったという実感した生徒ほど、さらに自分の力を伸ばしたいと意欲的に考えるようになっていく。 ＜地域・保護者＞ ・学校へ賞賛や激励の手紙やコメントが多数寄せられ、学校へ足を運んでくださる方、協力してくださる方が増えた。「PR マップにこののぼりを取り上げていただいて、また来年もやろうと励みになりました」「自分たちの地域のよさを改めて知った気がします」「中学生に刺激され、自分たちも何かやらなきゃという気持ちになったよ」などの声が寄せられ、自治会でも地域コミュニティを見つめなおす機運が高まった。 ・同時開催イベントとの相乗効果もあり、「佐々木 P R 大作戦」では、全校生徒 6 7 名に対し、6 0 0 人を動員した。 ＜教職員＞ ・日常から、活動ありきではなく、資質・能力を高めるための活動だという視点が共通理解されるようになった。 ・研修の振り返りコメントから 3 年間の教育課程で資質・能力をスパイラルに育成するという視点がもてた。		
アピールポイント（アイデアや工夫） : ※3～5 つ程度の箇条書きしてください ・総合的な学習の時間を核とした教科横断的なカリキュラム（写真 1） ・生徒、地域、保護者、教職員が一同に介し、積み重ねとつながりのあるファシリテーション（写真 2） ・生徒の作った成果物（P R マップ、P R スライド、H P）（写真 4） ・総合的な学習の時間のルーブリックを作成し、生徒と教職員が共通理解		

写真 1 校内研修(28 年 12 月) 写真 2 佐々木の子どもの未来を語る会(29 年 8 月) 写真 3 佐々木活性化プロジェクト中間発表会(29 年 11 月)



写真 4
新潟日報
新聞記事
(30 年 2 月)



写真 5 「佐々木 P R 大作戦」
(30 年 2 月)



図 1 生徒アンケート(30 年 2 月)

今回の「プロジェクト」を通じて感じた「必要な力」
○会話を弾ませる力○自分の思いを人に伝える力○相手の話を深くできるようなコミュニケーション力○佐々木を愛する力○協力して物事を考えて、一つにまとめる力○自分から積極的に動いていく力
○いろいろな人と話すことができる力

表 1 N R T 全国標準学力検査国語の推移（平成 29 年度入学生） ※毎年、4 月に実施

中領域	小問	平成 2 9 年度			平成 3 0 年度		
		正答率	全国正答率	全国比 全国：100	正答率	全国正答率	全国比 全国：100
話すこと 聞くこと	目的や場に応じて話すこと	91.7	86.9	106	89.7	74.7	120
	意図を考えながら聞くこと	88.2	85.5	103	83.3	60.0	139
	適切に話し合うこと	93.4	85.0	110	90.3	61.8	146